

## 危機管理 新型インフルエンザ対応を通して

前デュッセルドルフ日本人学校 校長

大阪府豊中市立桜井谷小学校 校長 福 森 洋 一

**キーワード：集団感染，学校休業**

右表のように2009年6月に本校の児童生徒の約13%，69名もの感染者が出た。6年生は46名中33名約72%が感染したという事態であった。当時としては1つの学校として最大の感染者数であり，ドイツ社会の中で外国人である日本人が世界中で注目の新型インフルエンザにかかったという話題性は大変なものであった。

学年	在籍数	感染者数	割合
小1	76	3	3.95%
小2	73	0	0.00%
小3	76	4	5.26%
小4	62	2	3.23%
小5	66	7	10.61%
小6	46	33	71.74%
中1	45	1	2.22%
中2	39	12	30.77%
中3	52	7	13.46%
計	535	69	12.90%

### 実録 インフルエンザ集団感染

#### 小1のA君の感染と小6の修学旅行における集団感染が，同時に発生

- 6月9日(火) 学校休業
  - ・ 9時 デュッセルドルフ市の保健局より職員2名が来校し，感染児童と接触した小学部1年A君と同じクラスの児童25名（保護者同伴）の検体を採取した。関係職員6名を含む。
  - ・ 本校HPに新型インフルエンザ対応についての情報をアップし，保護者にHPを見るように電話連絡網で指示した。
  - ・ その後保健局より他の児童の様子等の事情調査があり，先週末多数の児童が体調を崩した6年生（修学旅行）についても検体を採取するとの指示があった。
  - ・ 2時 登校した6年生の検体を採取した。修学旅行に同伴した関係職員も検体採取を行った。
  - ・ 6月8日に行った感染児童A君の家族の結果が出た。父親と弟が陽性で感染，母親は陰性を確認。
- 6月10日(水) 学校休業
  - ・ 10時40分 総領事館よりの電話で，6年の検査結果は7名が陽性と報告を受けた。
  - ・ 13時過ぎ，検査結果（児童名）を聞くために総領事館に電話をして，7名の名前を確認した。
  - ・ 15時より，6年（16名），中2（37名）の検体を採取した。
  - ・ 陽性反応が出た児童生徒の家庭には直接保健局が訪問し，家族の検体を採取するとの指示があった。
  - ・ 17時 教職員36名の検体を採取した。
  - ・ 18時過ぎ，検診を終えた保健局の医師と打ち合わせの中，新たに6年生17名と体調不良を訴えていた中3生徒1名の陽性結果が知らされた。
  - ・ 6月10日(水) 20時段階で学校が把握している児童生徒の感染者数は，計27名
- 6月11日(木) 聖体祭（祭日）（WHO フェーズ6を発表）
  - ・ 早朝より，多数マスクの取材あり（電話，来校等）。



保健局による検査

- ・ 8時30分 職員打ち合わせ（本日の動きを確認，状況の把握及び共通理解）
- ・ 10時より，本校において未実施の6年感染者家族（8家族）の検体採取。
- ・ 10時26分 文科省よりの問い合わせに，返信メールをした。
- ・ 総領事館と情報交換を行った（感染者数等）。
- ・ 13時と16時 職員打ち合わせ（本日の動き確認，状況の把握及び共通理解）
- ・ 学校現場では，総領事館，市の保健局の指示に従って動いていることを再確認した。
- ・ 6月11日(木)18時段階で学校が把握している児童生徒の感染者は， 計32名
- 6月12日(金) 本校休業日（休日）
- ・ 7時前より，マスコミ数社の中継車や取材関係者が多数校門周辺に集まっていた。
- ・ 8時30分 職員打ち合わせ（本日の動き確認，状況の把握及び共通理解）
- ・ 検診の会場設営。陽性者を呼んで問診及び検査をするため，場所を校舎から離し体育館とした。
- ・ 準備後，職員に帰宅を命じ，三役（校長，教頭，事務長）と保健局スタッフが対応することとした。
- ・ 10時30分より，児童生徒（家族を含む）検診が行われた。13時過ぎ終了（校門は，出入りが出来ないぐらいのドイツのマスコミ取材あり）。
- ・ 総領事館の依頼で，各家庭に「総領事館のホームページを見るように」という連絡を行った。
- ・ 感染者数については，保健局の発表では46名（11日 20時）といことで，総領事館，学校とも，正確な人数を把握できない状態になっていた。
- ・ 教職員は陰性と思われるが職員の健康管理上と，ドイツ社会の日本人学校への目を考慮し，自宅待機とし学校を閉鎖状態とした。
- ・ 20時 総領事館を通じて明日のヤープンタークへの児童生徒の参加について，市長から自肅等の依頼メッセージをいただき，校長名で参加についての自肅を促した（HPへも記載）。
- 6月13日(土) Japan Tag（日本デー）
- ・ 教職員は自宅待機。
- ・ 9時 今後の対応について三役・教務で話し合い
- ・ 16時 保健局より全児童生徒の家族を含む名簿の作成依頼及び毎日の健康観察の依頼。
- 6月14日(日) 学校閉鎖中
- ・ 午前中，各担任が自宅より各児童生徒宅へ電話をして健康観察を行い，学校へ報告。それを集約して学校から保健局へ報告した。
- 6月15日(月) 学校休業
- ・ 8時30分 職員打ち合わせ（職員の検診について，学校再開へ向けて課題等の整理）
- ・ 10時 ベンラートの保健所で，小学部1年A君のクラス児童の検体採取を実施した（学校再開を考慮し，検査場所を学校から他の場所に変更を依頼した。その結果，検査場所が変更された）。
- ・ 11時 職員の検体採取を実施した。
- ・ 文科省へ報告（下記参照）

○まず，現段階では本校職員は誰も陽性反応は出ておりません。

○報道されている学校関係者というのは，市の広報に載った，修学旅行時のバスの運転手1人と，本校生徒が通っている塾の先生2名です。この3名を合わせて，学校関係者3名と記載されているように思います。

（市の広報を添付いたします。）

○現在（15日）学校が把握している，感染児童生徒数は，合計57名

※市の数（64名）とは7名の差があります。

○ 6月16日(火) 学校休業

- ・ 職員自宅待機（検査結果待ち）、8時 三役のみ出勤。
- ・ 9時頃より、各担任が全家庭に電話して健康観察。その後結果を保健局に連絡した。
- ・ 10時より、再検査対象者の検査（ベンラートの保健所）
- ・ 14時25分 保健局より6月15日の職員の再検査の結果報告があった。 全員陰性。
- ・ 結果を受け明日より、職員は通常勤務とすることを指示した。

○ 6月17日(水) 学校休業

- ・ 職員通常勤務、8時30分 職員打ち合わせ
- ・ 9時より、各家庭に電話連絡（健康観察、保健局よりの指示の内容確認）
- ・ 10時 総領事と学校再開に向けて、電話で打ち合わせを行った。
- ・ 13時 小学部会、中学部会で学校再開に向けての意見調整を行った。
- ・ 14時30分 教務部会（小学部会、中学部会の意見を集約）
- ・ 15時 保健局より、明日140名の検査依頼（児童生徒、講師） その後、各家庭に連絡した。

○ 6月18日(木) 学校休業

- ・ 8時30分 職員打ち合わせ（学校再開に向けできることを準備しておくことを指示）
- ・ 9時 理事長と学校再開と現在行われている検査について意見交換を行った。
- ・ 昼頃 保健局より今後も検査が続く旨と市長が24日(水)に来校予定との連絡があった。
- ・ 16時30分 明日以降の検診対象者の名簿が届いた。
- ・ 16時40分 職員打ち合わせ（検診対象者の名簿確認、その後検診対象者に電話連絡）

○ 6月19日(金) 学校休業

- ・ 8時30分 職員打ち合わせ（23日(火)を学校再開と提案）  
（23日の学校再開日を過ぎても自宅待機で登校できない子への配慮や昨日検診を行った子の結果をいつまで待つかということについて）
- ・ 9時 担任を通じて電話による各家庭での健康観察を行った。
- ・ 13時30分 職員打ち合わせ
- ・ 6月18日の検診の結果、新たに中学部3年より1名陽性が出た。
- ・ 15時50分 職員打ち合わせ、23日(火)の学校再開を決定（校長判断）
- ・ 理事長、総領事館に23日学校再開を連絡した。
- ・ 小学部、中学部部会で、学校再開に向けて話し合いを行った。
- ・ 中3より計2名の陽性者がでた。

○ 6月22日(月) 学校休業

- ・ 8時30分 職員打ち合わせ（学校再開に向けて確認）  
検診結果が届いていない児童生徒について再度問い合わせを保健局に行った（陰性の結果を受け取らないと、登校できない児童生徒が200名近くいる）。
- ・ 10時 校内運営委員会で休業中の授業補填等の確認を行った（保護者配布文書内容を確認）。  
検査結果が届いていない児童生徒たちへの対応を協議。保健局からの返信を待っている状態が続く。
- ・ 14時 職員会議（事務長、教頭電話対応）
- ・ 17時30分に保健局長と面談（教頭、事務長、S先生）  
（検診結果のリストは、でき次第メールで送るとのこと）
- ・ 20時前 三役、教務で対応を話し合う、あと30分メールを待つことになった。

- ・ 20時30分 打ち合わせを行い、検査結果待機の方に連絡を取る方向で動くことになった時、保健局より検査リストが届き、リストを検討した（リストの信憑性等）。
- ・ 21時過ぎ 学校として、保健局の指示及びリストに従って判断し、明日の登校についての連絡をすることにした。

連絡内容 （1. 別途保健局より指示がある人は、それに従う）  
 （2. 検査結果が出ている人は、結果に従う）  
 （3. 結果が出ていない人は、リストから判断して登校について指示）

22時過ぎ 連絡終了

- 6月23日(火) 学校再開
- 6月24日(水) 終息セレモニー 欠席28人(22人自宅待機)
  - ・ 10時 市長が来校し、新型インフルエンザ終結のセレモニー
- 6月25日(木) 欠席16人(15人自宅待機)
  - ・ 保護者向けプリント配布（お詫びとお礼）
  - ・ 13時 父母全体会において「新型インフルエンザについて」報告を行い、質疑に答える。
  - ・ 16時過ぎ、N幼稚園、E幼稚園、R幼稚園へプリントを持ってあいさつ（お詫びとお礼）
- 6月26日(金) 欠席14人(12人自宅待機)
  - ・ 10時 テレビ局が来校し、取材を受ける。
- 6月27日(土) 補習校の終業式でプリントを配布（お詫びとお礼）
  - ・ 6月13日、20日と2日間を学校休業とした補習校へ（職員、運営委員、終業式で児童生徒）
- 6月29日(月) 欠席8人(4人自宅待機)
  - ・ 11時20分 総領事館（総領事、首席領事） あいさつ
  - ・ 15時 日本クラブ会長へあいさつ、日本商工会議所会頭へあいさつ
- 6月30日(火)
  - ・ 13時 センターテレビの新型インフルエンザの特集番組のインタビューに応じた。
- 7月3日(金)
  - ・ 6月25日の父母会全体会において新型インフルエンザへの対応について説明し、質問等にも答えた内容を父母会がまとめ父母会便りとして、全家庭に配布（保護者への文書での説明）。
- 7月7日(火)
  - ・ 理事運営委員会で新型インフルエンザの対応について説明
- 7月8日(水) 終業式
  - ・ 一応、1学期を終えることができたが、この新型インフルエンザの集団感染による学校休業は目に見える影響だけでなく、心的影響も計り知れないものであった。
- 8月15日(土) 夏祭り
  - ・ デュッセルドルフ市が、6月13日のヤーパンタークに参加出来なかった日本人学校の児童生徒のために「夏祭り」を開催し、心のケアをしてくれた。写真は市長さんからの日本人学校へのメッセージの様子である。
- 8月22日(土) ライン川のゴミ拾い清掃ボランティア
  - ・ 新型インフルエンザのデュッセルドルフ市の誠意ある対応や夏祭り開催への感謝の意味を込めて、ライン川の清掃活動を行った。土曜日の午前中であったが、300人近い親子での参加。



夏祭り 市長挨拶

○ 9月12日(土) 採血の協力

- ・デュッセルドルフ市の保健局から、その後の経過等の把握のための採血の依頼があり、多くの児童生徒、保護者が協力した。

再び、学級休業

- ・ 11月 5日(木) 小2年3組(欠席者11名) 5日～10日休業
- ・ 11月18日(木) 小4年2組(欠席・早退者7名) 19日, 20日休業
- ・ 11月19日(木) 小4年1組(欠席・早退者8名) 20日休業
- ・ 11月23日(月) 小1年1組(欠席者9名) 23日, 24日, 25日休業  
小2年2組(欠席者6名) 23日, 24日, 25日休業  
小5年1組(欠席者8名) 23日, 24日, 25日休業
- ・ 12月 7日(月) 小1年2組(欠席者7名) 7日～10日休業  
小1年3組(欠席者7名) 7日～10日休業  
小5年1組(欠席者8名) 7日～9日休業

結果 感染者数(2009年度) 1学期 69名 夏休み2名  
2学期 109名  
3学期 1名 計181名  
教職員 5名(2学期) 総計186名

学級休業 9学級(21学級中)

学年休業 6年 6月8日(1日) 1学年

学校休業 6月9日～22日(14日間)

学校教育における影響

- ・ 中止 4年宿泊行事, 予定していた交流活動全て
- ・ 運動会 縮小実施
- ・ 授業補填 7校時授業の実施。秋休み(3日間)を中止し授業日とした。  
1学期通知表を夏休み中に渡した。

対応

- ・ 危機マニュアルの改定
- ・ 予防 換気の徹底, 手洗いの奨励(各教室の水道増設), 消毒液の設置
- ・ 情報管理 HPにパスワードをかけて情報管理, 連絡経路の確認
- ・ 市(保健局)への協力 予防接種実施, 血液検査極力

まとめ

我々ドイツという海外で暮らす日本人, ドイツ人から見れば日本人の一つひとつの対応や動きは, 日本人そのものへの評価となり, 今後の日本人に対する見方にもなってくる。今回の新型インフルエンザの騒動は慎重かつ適切な対応が必要となった。常にアンテナを高くし, 必要な情報を適切なメンバーで共有した。そして責任を持って, 責任者が判断すると言うことを実感させられた。判断した内容については説明責任が存在することを踏まえ, 十分説明できるようにしておくことが不可欠であった。また常に感謝の気持ちを忘れないことも必要になるだろう。降りかかった火の粉を災いと考えず, 使命と考えることが校長の役割の1つだろう。この経験が皆様の今後の対応への一助となればと願う。